

研究・調査報告書

報告書番号	担当
311	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名（原題／訳）	
Relationship between body mass index, alcohol use, and alcohol misuse in a young adult female twin sample. 若年双生児女性における肥満度（BMI）とアルコール飲酒との関連	
執筆者	
Duncan AE, Grant JD, Bucholz KK, Madden PA, Heath AC.	
掲載誌（番号又は発行年月日）	
J Stud Alcohol Drugs. 2009 May;70(3):458-66.	
キーワード	
若年者 双生児 アルコール飲酒 肥満度 BMI	
要 旨	
目的： 白人および黒人若年双生女性における肥満度（BMI）とアルコール飲酒との関連を検討する。	
方法： 1975年から1985年に誕生した白人および黒人双生女性（黒人3020人、白人494人）を対象に2000年から2005年に質問票による調査を行い、Cox比例ハザードモデルにより若年飲酒、常用飲酒、多量飲酒の相対リスクを肥満度により算出した。肥満度はBMIにより四群（やせ群：18.5未満、適正体重群：25未満、過体重群：30未満、肥満：30以上）に分類した。	
結果： 調査時の平均年齢は22歳であった。多変量調整すると白人女性では肥満は若年飲酒のリスクは適正体重の女性飲酒者と比較して0.83倍（95%信頼区間：0.73-0.94）、常用飲酒のリスクは0.36倍（95%信頼区間：0.24-0.53）、多量飲酒のリスクは0.51倍（95%信頼区間：0.31-0.82）であり、負の関連を認めた。両親と同居している過体重の女性は常用飲酒のリスクが有意に低く、両親と同居していないか体重の女性は多量飲酒のリスクは有意に低かった。黒人女性では肥満はいずれの飲酒習慣とも関連を認めず、過体重は適正体重と比較すると常用飲酒のリスクが2.91倍（95%信頼区間：1.33-6.39）高かった。	
結論： 白人女性では肥満は適正体重と比較して若年飲酒や常用飲酒、多量飲酒のリスクが低かった。体重は若年女性の飲酒行動に影響を与える可能性があるが、その関連は人種により異なる。今後、体格と飲酒行動との関連を説明する機序ならびに、人種による違いを説明する研究が必要であろう。	